

◇開催にあたって

本年は、四代金光様がお隠れになって二十年、現教主金光様ご神勤二十年の節目にあたるお年柄です。

四代金光様は、「くずれんとするこのわれを支へ給ひ日に日に新たに亡き父おはす」と詠まれたように、ひたすらに三代金先様のみ跡を敬い慕って、二十八年の歳月をただ一日のごとくご奉仕になられ、平成三年一月十日、八十一歳八か月の御身でご帰幽になられました。

四代金光様の跡を継がれた現教主金光様は、しばしば、「世話になるすべてに礼を言う心を土台にして」とみ教えくださいますように、四代金光様のお心をそのままに頂かれ、喜寿をお迎えるの御身をもって、今日ただ今、ご用をお進めくださっておられます。

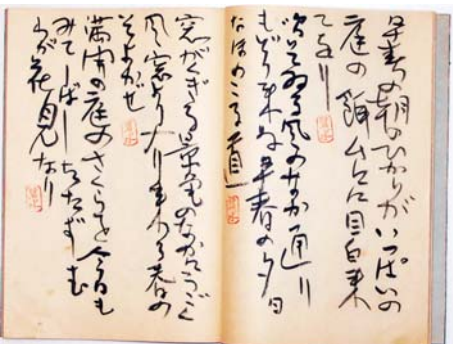
歴代金光様のあられ方は、ほとんど生命の限り、教主としてのお働きを全うするとの、圧倒されるほどの願いに裏付けられてのものであったと思わされます。ここまでの教主金光様のお徳とご内容を頂き、全教がそれぞれの立場において、ここからいつそう生き生きとした信心生活の歩みを進めさせていただきたい、と願うところから「金光様展 ― 四代金光様 現教主金光様を頂く ―」を開催いたします。

今回の展示は、四代金光様の未公開作品をはじめ、現教主金光様の御用姿勢の一端を伺わせていただくべく、折々に認められた半切、色紙、写真等を展示いたします。また、現教主金光様が、病床にあったご子息明信先生のために書かれた色紙をはじめ、折々に故人を偲んで書かれた一群の色紙も、このたび、特にお許しを頂いて、はじめて展示いたします。

◇四代金光様

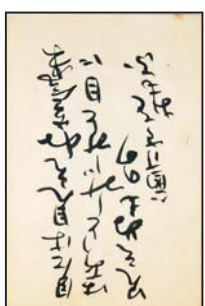


大そらの真中に  
我がありと  
おもひ見あ  
かぬ大き  
青空



早春の朝のひかりがいつばいの庭の餌台に目白来てをり  
吹いてゐる風のなか通りもどり来ぬ早春の夕日なほのこる道  
窓がくぎる景色のなかにうごく風窓より入り来る春のそよかぜ  
満開の庭のさくらを今日もみてしばしたたずむわが花見なり

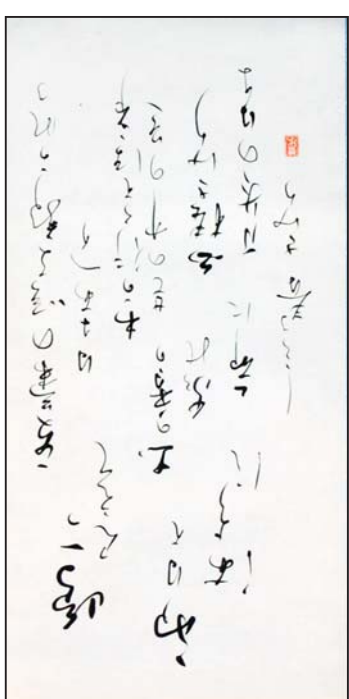
春のあけ  
にのち海  
初



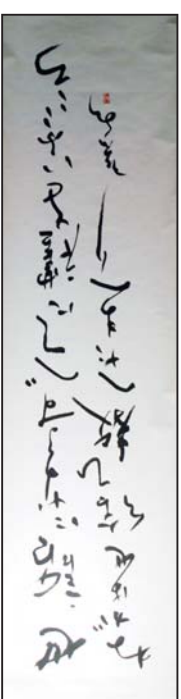
天  
地書地  
附書  
四代金光様  
真直筆



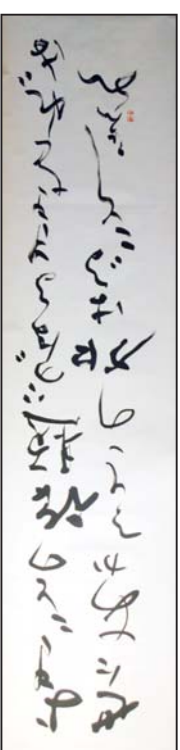
春のあけ  
にのち海  
初  
春のあけ  
にのち海  
初



春のあけ  
にのち海  
初



春のあけ  
にのち海  
初

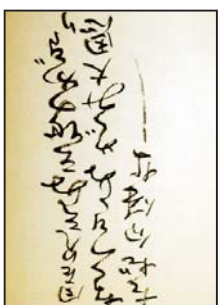


春のあけ  
にのち海  
初



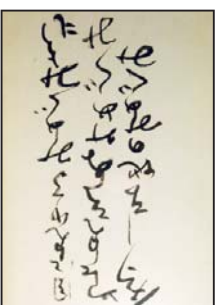
春のあけ  
にのち海  
初

春のあけ  
にのち海  
初



春のあけ  
にのち海  
初

春のあけ  
にのち海  
初



春のあけ  
にのち海  
初

◇四代金光様

金光図書館第2展示室

本部総合庁舎1階

期間  
平成23年4月  
～平成24年2月

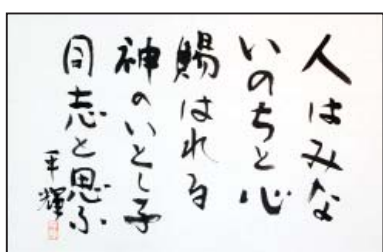
金光様展

― 四代金光様 現教主金光様を頂く ―

金光図書館

719-0111

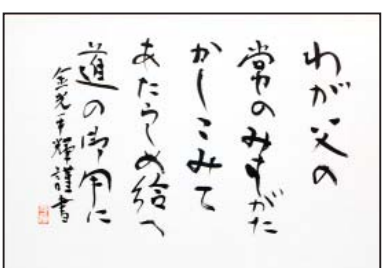
主催  
岡山県浅口市金光町大谷320  
電話 0865(42)2054



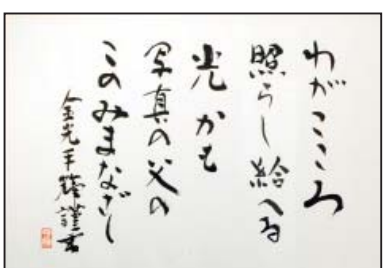
人はみないのちと心賜はれる神のいとこ子同志と思ふ



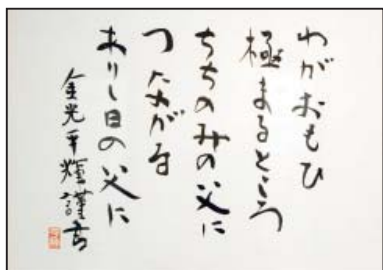
天地 自然



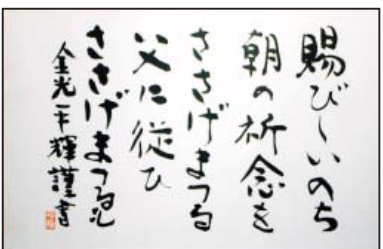
わが父の常のみすがたかこみてあたらしめ給へ道の御用に



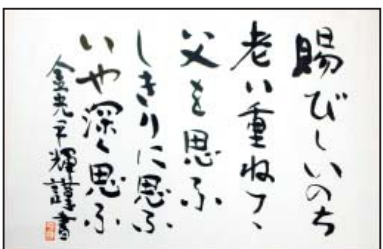
わがこころ照らし給へる光かも写真の父のこのみまなざし



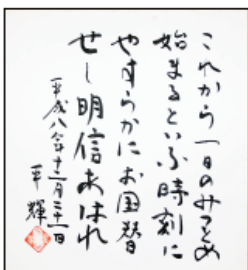
わがおもひ極まるころちちのみの父につながるありし日の父に



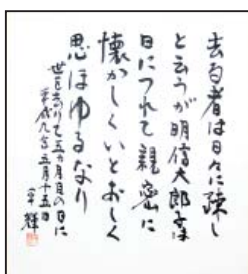
賜びしいのち朝の祈念をささげまつる父に従ひ



賜びしいのち老い重ねつ父を思ふしきりに思ふいや深く思ふ



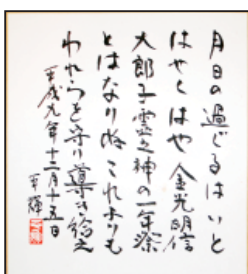
これから一日のみつとめ始まるといふ時刻にやすらかにお国替せし明信あはれ



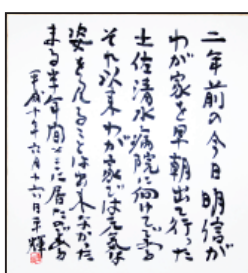
去る者は日々疎しと云うが明信大郎子は日につれて親密に懐かしくいとおしく思ほゆるなり  
世を去りて五カ月目の日に



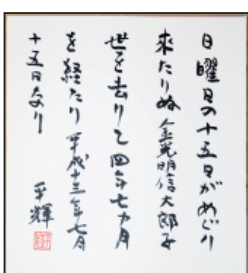
明信へ  
天地の息吹  
天地の気吹



月日の過ぐるはいとはやくはや金光明信大郎子靈之神の一年祭とはなりぬこれよりもわれらを守り導き給え



二年前の今日明信がわが家を早朝出て行った土佐清水病院に向けてであるそれ以来わが家では元気な姿を見ることは出来なかつたまる半年間そこに居たのである



日曜日の十五日がめぐり来たりぬ金光明信大郎子世を去りて四年七カ月を経たり平成十三年七月十五日なり

◇ 現教主金光様のおことば

ハワイのセンター職員に(平成十二年八月二十二日)

信心する者は顔が大切です。顔の表情一つで、信心がどのようにでも変わります。

例えば、モナリザのほほえみです。モナリザは、どこから見ても、いつでもだれに對しても、ほほえんでいます。こういう笑顔で人に接したいものです。

サトウサンペイさんも言っている、「アイラブ オール(私はすべてを愛しています)」ということと、それに四代金光様の「実意をこめてすべてを大切に」ということを込めてのことです。

だれでも、心の底から実意に、すべての人、すべてのものを愛し、大切にするという、神様のような心があれば、自然にいつでも笑顔というものがにじみ出てくるものです。